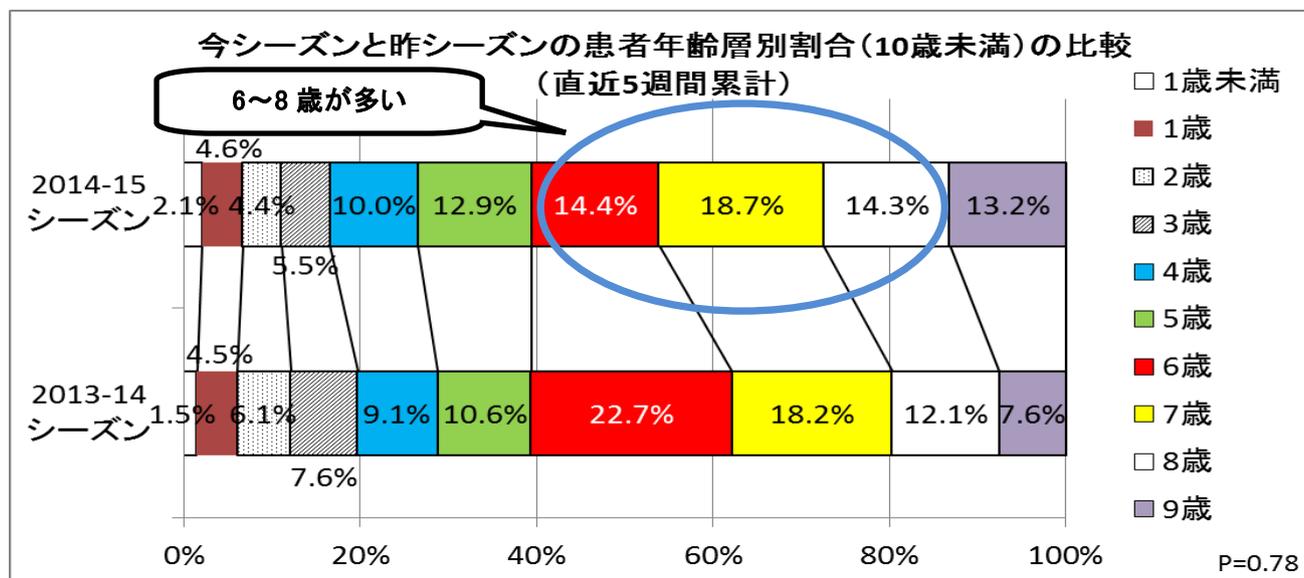
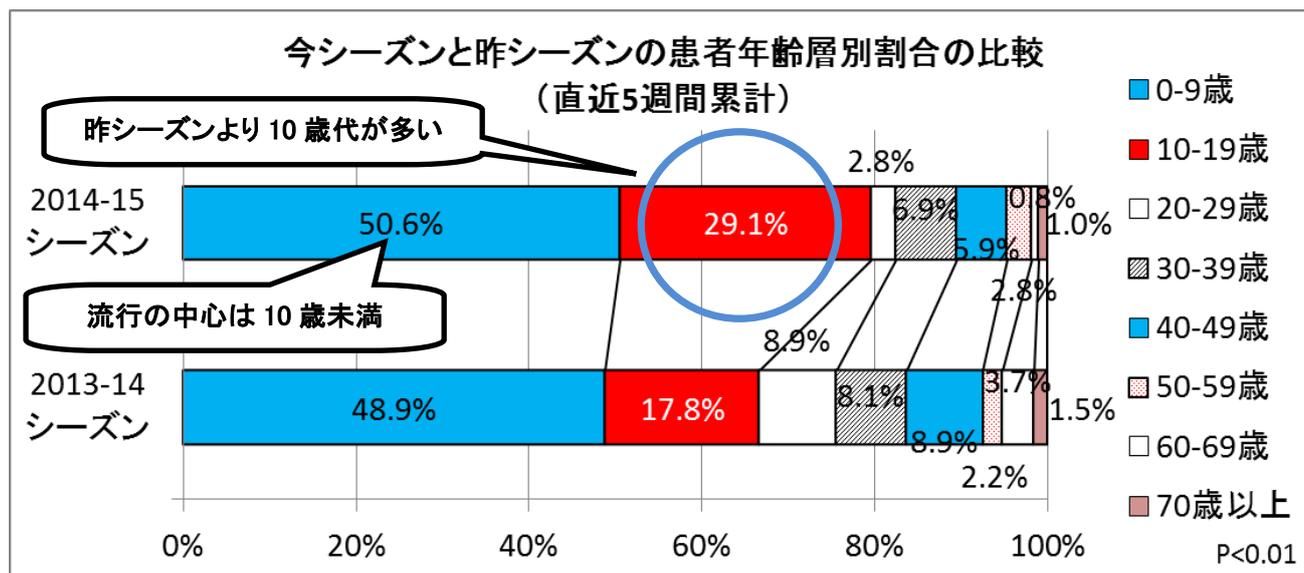
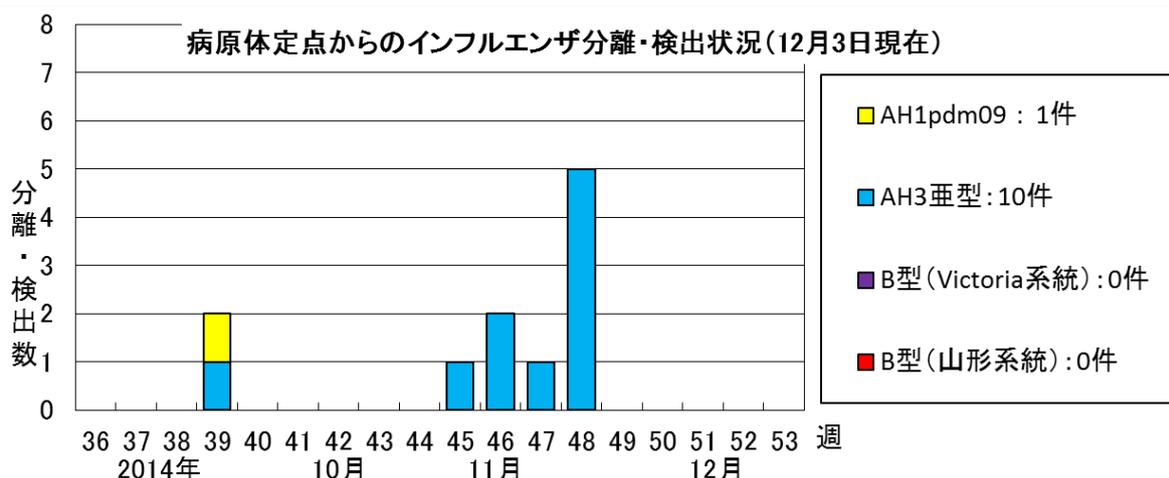


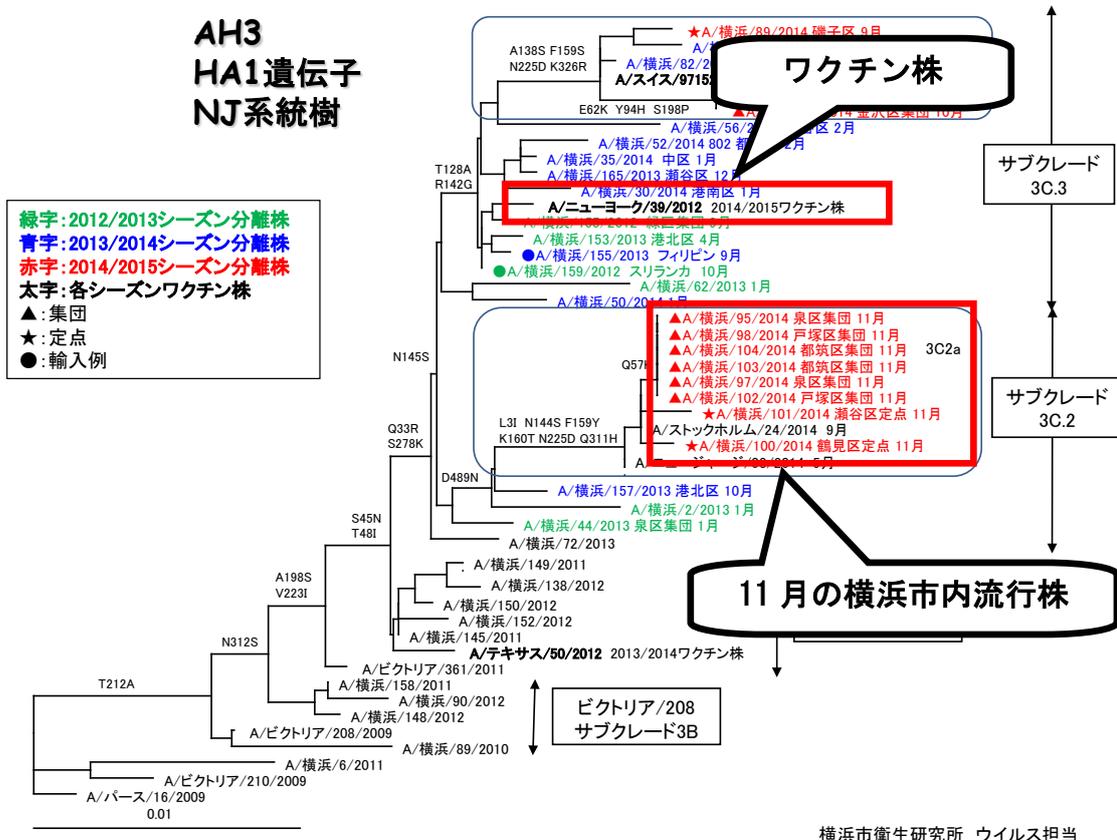
2 年齢層別集計:直近5週間(第44~48週)の患者年齢層別割合(累計)では、10歳未満が約5割を占め、その中でも6~8歳で多くなっていました。また、昨シーズンに比べて10歳代の割合が多くなっていますが、今シーズンは流行の開始が早く、10歳未満の子供たちの流行が、既に10歳代まで広がりつつあることが考えられます。



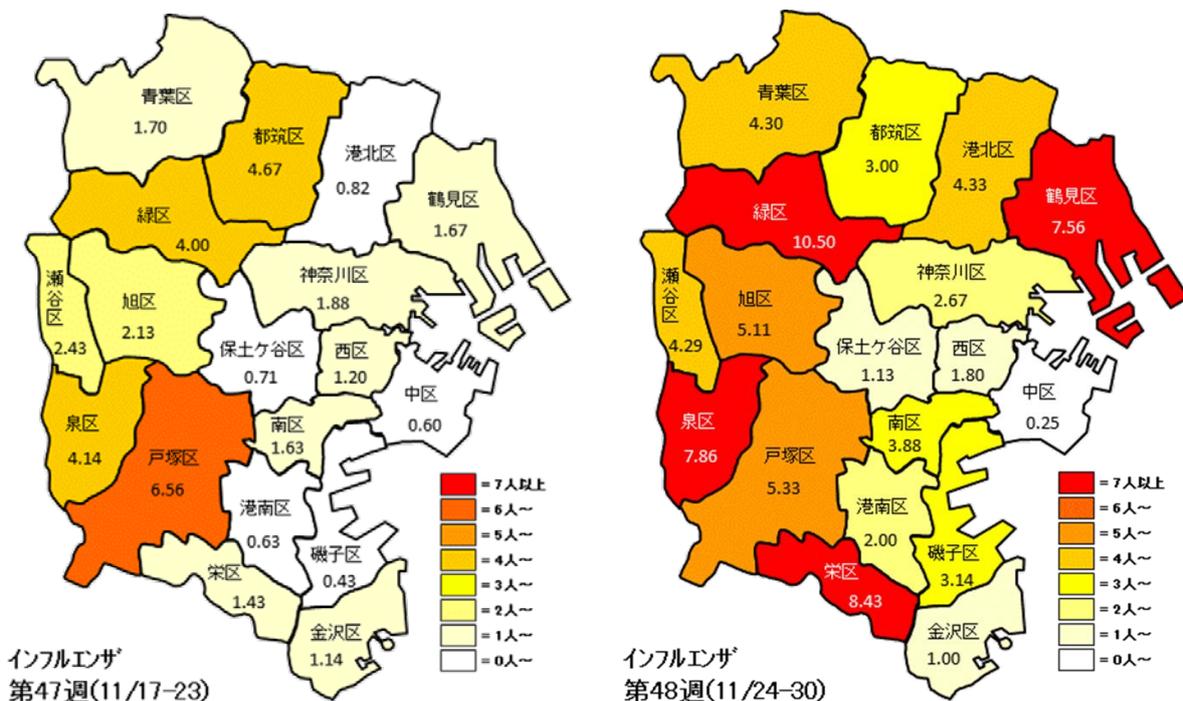
3 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計11件インフルエンザウイルスが分離・検出されていますが、第39週にAH1pdm09が1件検出されて以降はすべてAH3亜型です。病原体定点以外に集団かぜの調査で得られた検体から検出されたインフルエンザウイルス 36件すべてがAH3亜型でした。



4 インフルエンザウイルスの遺伝子解析：11月に横浜市で検出されたインフルエンザ(AH3)の遺伝子を解析したところ、ワクチン株とはアミノ酸がいくつか異なっていました。今シーズンのワクチン株と流行株の抗原変異(ワクチン株と流行株との違い)については今後の国立感染症研究所での分析結果を待つ必要があります。



5 地図で表した直近2週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237